

開講日	2014年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学 教授 明智 龍男		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】'No health without mental health'ともいわれるように、現代は、あらゆる世代のこころや脳の病が、医学、医療の中における最重要課題として取り上げられる時代である。中でも、ストレス社会を背景とするうつ病や不安障害に罹患する人の増加、社会の高齢化を受けての認知症患者の増加、これまで見過ごされることも多かった発達障害などへの対応は喫緊の課題とされている。また高齢者に多いがんをはじめとする身体の病気に伴って生じるこころの問題や介護者のストレスも無視できない。治療に関しては、薬物療法の発展に加え、効果が実証された精神療法/心理療法なども少しずつ医療の現場に浸透しつつある。こころや脳を扱うこれら医学および医療の領域の益々の重要性が繰り返されつつあるが、主として精神現象を扱うこれら領域は進歩が目覚ましい一方で、とすると複雑でわかりにくい。本講座では、現代社会で高い関心が寄せられているこころや脳の病に焦点を当て、その最前線を含めわかりやすく紹介したい。</p> <p>【期待される成果】頻度の高いうつ病や不安障害、認知症に加え、発達障害、身体疾患に伴う精神症状など様々な精神神経疾患に関して、その病態および診断、家族ケアまで含めた治療法について最新の知見について理解することができる。</p>
目標とする 資格	

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	学びなおしにあたって: 総論・症候学・診断	本世紀はこころの世紀ともいわれるように、こころの病が国家対策上でも重要な課題として取り上げられる時代である。こころや脳の医学の益々の重要性が繰り返されつつあるが、精神現象を扱うこれら領域はとするとわかりにくいものでもある。そもそもこころや脳の病とはどういったものを指すのであろうか? 精神の異常という言葉があるが、何をもちいて異常とするのであろうか? 精神現象を表す言葉として、「不安」「抑うつ」「妄想」「幻覚」などがあるが、これらの定義はどういったものであろうか? 世間には情報があふれる一方で、精神神経疾患については誤解も多い。本講義では、これから始まる講義に先立ち、総論的な内容を紹介したい。	4月15日	教授 明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-2	2	統合失調症	統合失調症についての考え方が変わってきています。病気の治療を目指すだけでなく、予防まで見据えた治療が行われるようになってきました。統合失調症とはどんな病気なのか、治療の最前線はどこにあるのかを、概説します。	4月22日	講師 竹内 浩 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-3	3	うつ病・双極性障害	うつ病や双極性障害(躁うつ病)は似たような疾患と捉えられがちですが、近年は異なる疾患であると考えられるようになってきています。それぞれの評価や治療について、平易に概説します。	5月13日	病院准教授 奥山 徹 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-4	4	不安障害	パニック障害や社交不安障害などの不安障害の疾患を中心に講義します。解離性障害や摂食障害などの疾患も扱う予定です。症例を紹介しつつ疾患の具体的なイメージを持っていただけるように説明していきます。	5月20日	助教 小川 成 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-5	5	強迫性障害	強迫性障害の疾患概念、症候学、病態生理、診断や治療法など、その歴史の変遷から最新の知見までを概観するとともに、日常に潜む強迫傾向から診断類型としての「強迫」まで、連続体(spectrum)としてのありようを理解する。	5月27日	助教 橋本 伸彦 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-6	6	発達障害とDSM-5	2013年5月の「精神疾患の診断・統計マニュアル」の改定で「発達障がい」がどういう位置づけになったのかお話しします。	6月3日	病院講師 山田 敦朗 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-7	7	てんかん	てんかんは約7割の患者さんで発作がとまり日常生活に支障がないにもかかわらず、誤解されていることも多い疾患である。今回はこの数年の治療状況の変化とよくみられる発作症状とその対応などについて説明する。	6月10日	講師 東 英樹 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-8	8	身体疾患患者の精神的ケア	がん闘病中の患者様を念頭において、正常な反応、不安、抑うつ、せん妄など頻度の多い精神症状をとりあげ、ケアの在り方について概説します。またがん患者のメンタルケアにおける様々な心理社会的介入の効果に関するエビデンスの現況にも触れる予定です。	6月17日	助教 中口 智博 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知行動医学
L-9	9	認知症の基礎	アルツハイマー病の疫学、原因遺伝子の発見、危険因子の発見の歴史等を概説し、基礎研究の概略を解説するとともに、それを基盤にした治療・予防法の開発研究の現状と未来について研究の側面から解説します。	6月24日	教授 道川 誠 名古屋市立大学大学院医学研究科 病態生化学
L-10	10	認知症の臨床	アルツハイマー病の疫学、原因遺伝子の発見、危険因子の発見の歴史等を概説し、基礎研究の概略を解説するとともに、それを基盤にした治療・予防法の開発研究の現状と未来について研究の側面から解説します。	7月1日	教授 松川 則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学
L-11	11	脳血管障害および血管性認知症	物忘れを訴えて受診する患者さんの約6割がアルツハイマー病です。今回の講義では、日常臨床の場面でアルツハイマー病、レビー小体病、前頭側頭葉認知症などのように診断していくのか、治療介入をどのようにしているかを中心に概説します。	7月8日	教授 松川 則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学
L-12	12	精神療法: 認知行動療法を中心に	精神療法の一つである認知行動療法は、抑うつ症状、不安症状などに対して、薬物療法と同等の効果があることが認められている。本講義では、認知行動療法の理論の簡単なご紹介から具体的な技法の活用まで、作業やロールプレイを取り入れながら、紹介したい。	7月15日	准教授 中野 有美 椋山女学園大学 人間関係学部
L-13	13	精神科領域の治療薬	精神科領域の薬としては、抗うつ薬、抗躁薬、睡眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、気分調整薬などがあります。他の診療科と少し違い、精神科の処方薬はそれぞれの併用薬の処方意図がとつきにくいことがあるのではないのでしょうか。それを読み解くことを目指し、概説します。	7月22日	薬剤師 山本 清司 名古屋市立大学病院 薬剤部
L-14	14	脳画像診断	放射線画像診断の基礎的な考え方から、なぜこころの病の画像診断は難しいのか、医療現場の現状、そして今後の展望を臨床医の観点から紹介していきます。	7月29日	医師 川口 毅恒 刈谷豊田総合病院 放射線科
L-15	15	家族支援	精神疾患に限らず、慢性疾患の患者様と同居している家族は、家族にもストレスが蓄積し、精神的にも悪い状態になることが知られています。家族にストレスがたまるとうつ病や認知症などの疾患が不安定になり、そのことで患者様の病状に悪い影響が出ることもあります。このように多くの慢性疾患では家族関係が悪循環にはまってしまうことがあります。家族が病気になるれば心配なのは当然ですが、実際はどのようにかかわればいいのか、よい家族とは過去の研究結果や臨床経験からよりよい家族としてのかかわり方をお話しする予定です。	8月5日	准教授 香月 富士日 名古屋市立大学大学院看護学研究科 精神保健看護学